

2024年7月9日

八代市長 中村博生様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水晃、上村雄一、本田進

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604

E-MAIL: tsuchi_tk@yahoo.co.jp

瀬戸石ダム下流の警報問題に関する要請書

私たちは、2020年7月4日の球磨川豪雨災害（以下豪雨災害）発生時に、瀬戸石ダムに関連して起こった様々な問題を取り上げて、ダムを管理運営している電源開発株式会社（以下電源開発）や河川管理者である国土交通省に対応を求めて働きかけてきました。いまだに解決していないダム下流の八代市坂本町（以下坂本町）住民の生命財産に直結する警報問題などに関して貴職に対して、下記の通り要請いたします。

記

1.警報の遅れの問題

瀬戸石ダムが放流したら、電源開発は下流の坂本町にその放流量を28の警報局から放送するようにしているが、豪雨災害時にはその放送が最大2時間以上、大幅に遅れた。放送を基にして、避難するかどうかが判断する住民も多いと聞く。放送の遅れは、住民の避難の遅れにつながり、住民の命を危険にさらす重大な問題である。電源開発は放送が遅れたり、放送が出来なかったりしたことに関して、坂本町住民に謝罪どころかも説明も公表もしていない。また対応状況を問い合わせても答えようとしな（2024年7月2日、電源開発株式会社南九州電力所 竹ノ下孝芳氏への確認結果）。添付資料1～6枚目参照。

2.警報局の水没の問題

28の警報局からダムの放流情報を放送することになっているが、豪雨災害時に28局中19局が水没して使えなくなった。その後、電源開発は復旧させたと言っているが9局は再び豪雨災害時の水位になったら水没してしまう。それらも2026年度の出水期までに、より高い場所に移設すると電源開発は言っているが、今年と来年の出水期にどうするのかは明らかでない。添付資料7～17枚目参照。

3.警報局の放送が聞こえない問題

『坂本からの証言－2020年7月4日球磨川水系豪雨記録集』（2022年7月、人吉中央出版社）という坂本町の被災者の証言集には、（豪雨災害当日の4時過ぎ）「ダムの放流放送もしばらく聞いておらず、最後に聞いた流量は危険域にまだ近づいていなかった」（溝口麻千子さん、荒瀬地区、19頁）（豪雨災害当日の4時くらいに）「瀬戸石ダムの放流量が4000トンと放送が流れたが、雨の音ではっきりとは聞こえなかった」（山方香代さん、下代の瀬地区、68頁）という証言が掲載されている。溝口さんの住む荒瀬地区では、警報局の水没によって放送が聞こえなかったのかもしれない

いが、山方さんの証言ははっきりと聞こえない原因は雨の音であるとしている。他にも放送が聞こえないという話を聞く。豪雨時にも放送が聞こえるようにすべきである。

4.テレホンサービスの問題

電源開発は瀬戸石ダムの放流量をテレホンサービスで伝えるようにしているが、2024年6月、当会メンバーがこのサービスを使おうとしたら、つながらなかった。電源開発に連絡し、復旧はしたが（2024年6月25日）、電源開発は自ら提供するサービスが正常に稼働しているかどうかのチェックもしていないことが明らかになった。

またこのテレホンサービスは、1回線でしか提供していない。つまり、誰かがこのサービスを聞いている時は、他の人が電話しても話し中でつながらない。災害発生時は電話が集中するため、複数の回線を設置すべきである。

5.X（旧ツイッター）、ケーブルテレビの問題

放流情報はX、ケーブルテレビでも提供していると電源開発は述べているが、高齢者が多い坂本町でどれだけの人がXにアクセス出来るのか。また、豪雨災害時には坂本町は停電していたという。ケーブルテレビを見ようにも停電しているのであれば、見ることは出来ない。非常時のことを想定したサービスにはなっていない。

上記5点、坂本町住民の生命財産にかかわる問題でありますので、貴職から電源開発を始めとする関係機関に働きかけされますようお願いいたします。

以上